親評定・児童用多面的協調性尺度の作成

小学生の親対象の調査をもとに

○登張真穂¹・名尾典子¹・首藤敏元²・大山智子³
(¹文教大学人間科学部・²埼玉大学・³白百合女子大学)

キーワード：協調性，児童，親評定尺度

Development of Multifaceted Cooperativeness Scale for Children Assessed by their Parents.

Maine TOBARI¹, Fumiko NAO¹, Toshimoto SHUTO², and Tomoko OYAMA³

(¹Bunkyo University, ²Saitama University, ³Shirayuri College)

Key Words: Cooperativeness, Children, Assessment by their Parents.

目 的

登張・首藤・大山・名尾（印刷中）は大学生と高校生の調査をもとに，調和志向，協調的問題解決，非協調志向，協力的志向の4下位尺度からなる新たな（成人・青年期用）多面的協調性尺度を作成した。この尺度をもとに親が評定する小学生用の協調性尺度を作成し，小学生の親1734名を対象に質問紙調査を行った。本研究では，この調査の因子分析結果をもとに，親評定・児童用多面的協調性尺度を作成する。

方 法

研究対象：小学生1～6年生をもつ親1734名（男性126名，女性590名，性別不明18名；25～73歳；50歳以下が8.2%，少数の祖父母が含まれていると考えられる）
小学校内訳：公立646，私立17，国立5，不明66名。
保護者職業：フルタイム20.4%，パートタイム40.5%，専業主婦31.1%，その他（自営業など）5.9%

質問項目：多面的協調性尺度（登張他，印刷中）作成の過程で収集された協調性に関する項目のうち，小学生の協調性を表すと考えられる項目と，小学生用に表現を変更した項目のほか，自己主張，共感性，協調性に関するスキル，視点取得等を表す項目を考案して計41項目とし，各項目について，自分の子どもにどの位当てはまるか，「全然当てはまらない」～「よく当てはまる」の5段階で評定を求めた。

結 果

全41項目の内容について再吟味し，協調性のいろいろな側面を表す項目として22項目を選択し，最尤法，プロマックス回転の因子分析を行った。4因子では，高校生，大学生対象の因子分析で抽出された協力志向，協調的問題解決，調和志向に対応する因子と，「他者からの依頼」に関連する因子が抽出され，非協調志向に対応する因子は抽出されなかった。累積寄与率は45.6%であった。因子数を3に指定すると，協調的問題解決，協力的志向，調和志向に対応する3因子が抽出された。累積寄与率は42.35%であった。

3因子が適切と判断し，複数の因子の負荷量が同等となる項目と，高校生の因子分析で他の因子の負荷量の方が高かった項目，最終的に尺度に含めなかった項目を除き，15項目を選択した。Table 1に15項目の因子分析結果を示した。累積寄与率は46.38%であった。第1因子の負荷量が高かったのは，成人・青年期用の協力志向尺度に含まれるのと同じ，または類似した3項目のほかに「人と喜びを分かち合える」と「集団遊びが上手にできる」の2項目であった。第2因子の負荷量が高かったのは，成人・青年期用の協調的問題解決尺度に含まれる項目と同じか類似した項目が多かった。第3因子の負荷量が高かった項目には，同調や追従を表す項目（周りの人に合わせすぎる，自分と相手の意見が違うとき相手に従う）が含まれていた。

それぞれ因子負荷量の絶対値の高い項目から3尺度を作成し，協力的志向尺度，協調的問題解決尺度，調和・同調尺度と

命名した。 α 係数はそれぞれ.81，.81，.73である。

Table 1 協調性15項目の因子分析（最尤法，プロマックス回転）

項目	因子負荷量			
	I	II	III	
人と喜びを分かち合える	.81	-.05	.04	
みんなで協力して何かをやり遂げるのが好きだ	.81	-.06	.03	
みんなで何かをやるときには進んで協力する	.63	.06	-.04	
試合のときなどチームのために頑張る	.58	.08	-.07	
集団遊びが上手にできる	.53	.07	-.05	
相手が納得するようきちんと説明する	-.04	.77	-.13	
自分と相手のどちらにとっても良い方法を考える	.01	.76	-.08	
自分と相手の意見が違うとき両方が歩み寄れるような解決案を考える	.03	.75	-.04	
どんな相手に対してもなるべく相手の話を聞く	.14	.52	.16	
自己主張ばかりして人の話を聞かない	.04	-.43	-.18	
人に迷惑をかけたことに気づいたら謝る	.21	.42	.03	
人の意見に合わせることが多い	.00	-.04	.81	
周りの人に合わせすぎる	-.07	-.01	.73	
自分と相手の意見が違うとき相手に従う	-.01	-.01	.67	
相手のペースに合わせない	-.07	-.19	-.35	
負荷量平方和	4.54	1.75	0.66	
回転後の負荷量平方和	4.04	4.10	2.16	
因子間相関	I	1.00		
	II	.68	1.00	
	III	.13	.29	1.00

考 察

小学生の親対象の調査結果をもとに，協力的志向，協調的問題解決，調和・同調という協調性の異なる側面を表す3下位尺度からなる親評定・児童用多面的協調性尺度を作成した。

小学生の親のデータでは，高校生，大学生の因子分析結果と同様の協力的志向因子と協調的問題解決因子が抽出されたが，非協調志向因子は抽出されず，調和志向に対応する因子は同調を含む内容となった。これは，小学生用の表現にする際に否定的表現を肯定的表現に直した項目があったこと（人と喜びを分かち合える），調和志向の項目で小学生用にそのまま使える項目が少なく，大学生の調査で早い時点で削除した同調を表す項目を加えたことなどが関連しているかもしれない。

今後はこの尺度を用いて児童の協調性の発達を検討したい。

引用文献

登張・首藤・大山・名尾（印刷中） 多面的協調性尺度の作成 日本教育心理学会第57回総会発表論文集（本研究は科研費補助金（基盤研究C25380888）の補助を受けた）